

Trias 企業メモ 2010-08-25
(7587 JASDAQ)株式会社 PALTEK
2010年12月期 第2四半期決算説明会・フォローアップ取材サマリ

2010年8月10日、株式会社PALTEK(以下、PALTEK)の2010年12月期 第2四半期決算説明会が開催されました(説明会出席者: 代表取締役社長 高橋忠仁氏、取締役 徳永郁子氏、オペレーショナルサービスディビジョン ゼネラルマネジャー 井上博樹氏)。説明会后、高橋社長、徳永取締役、IR 担当柴崎由記氏にフォローアップ取材をさせていただきましたので、説明会、取材の概要を合わせてご案内いたします。

【第2四半期 連結決算概要】

2010年12月期第2四半期(4-6月)の連結売上高は24.5%増加の42.4億円となった。医療機器向けPLD、ブロードバンド向けASSPが好調であった。利益率の高い中堅・中小企業向けの売上が増えたことに加え、円高基調であったことから総利益率は17.8%と、1Qの17.2%から更に改善した。中堅・中小企業向けビジネスが動き始めたのは前年度4Qからだ、その基調は今年度1Q以降、特に強まった。営業利益は前年同期の100百万円の赤字に対して116百万円の黒字へと改善した。1-2Q累計では、売上高は20.2%増、営業利益は前年同期の230百万円の赤字に対し147百万円の黒字となった。

ソリューション/アプリケーション別売上高推移は下表の通り。PLDでは医療機器向け、アナログは中小顧客向け、ASSPはブロードバンド通信向け、メモリはカーナビ向けが堅調であった。牽引したアプリケーションは通信機器と産業機器(医療機器向けのほか、計測機器、FA向けも堅調)。民生機器、コンピューターでは特に有意義なデータが見当たらなかった。

【表1】ソリューション別連結売上高(四半期)

(百万円)	FY12/09				FY12/10		対前四半期 変化率	対前年同期 変化率
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		
PLD	1,169	897	1,226	1,398	1,291	1,349	4.5%	50.4%
アナログ	661	770	776	809	733	858	17.1%	11.4%
ASSP	1,122	1,372	1,542	1,498	1,353	1,516	12.0%	10.5%
メモリ	315	362	388	449	406	511	25.9%	41.2%
合計	3,269	3,403	3,934	4,155	3,785	4,236	11.9%	24.5%

※ PLD: プログラム可能な論理回路IC

ASSP: 分野・アプリケーションを限定して、機能・目的を特化させたLSI

【表2】アプリケーション別連結売上高(四半期)

(百万円)	FY12/09				FY12/10		対前四半期 変化率	対前年同期 変化率
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		
通信機器	770	963	1,101	1,232	1,062	1,225	15.3%	27.2%
産業機器	1,160	975	1,193	1,429	1,318	1,573	19.3%	61.3%
民生機器	540	719	768	485	264	323	22.3%	-55.1%
コンピューター	223	220	228	281	297	339	14.1%	54.1%
その他	576	526	644	729	846	776	-8.3%	47.5%
合計	3,269	3,403	3,934	4,155	3,785	4,236	11.9%	24.5%

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【2010年12月期 業績見通し】

通期の売上高は、前期比 16.5%増の 172 億円、営業利益は 265 百万円(前年度は 182 百万円の赤字)を計画している。堅調な売上状況と粗利益率の向上を受けて、上期見通しについては 7 月 23 日に上方修正していたが、下期見通しは現段階では据え置きとし、通期見通しには上期業績の上ブレ分のみ反映させている。下期も中堅、中小顧客の回復が続くと見込まれることに加え、過去にデザインインしたプロジェクトがいくつか立ち上がってくる見込みで、売上高は前年同期比 13%増の 91.8 億円を予想する。一方で、下期にかけては通信インフラ、放送機器等で利益率の低い量産案件が立ち上がる予定であるため、売上高総利益率は上期の 17.5%から 15.6%に低下すると想定している。ソリューション別では、量産案件の立ち上がり期待される PLD が下期は前年同期比 28%増の 33.6 億円と、売上高の伸びを牽引する見通しである。アナログソリューションも前年同期比 14%程度伸びる想定である。しかし、携帯、PC 向けで、かつて日系顧客のプレゼンスが高かった頃の半期売上高 30 億円台に対して現在は 18 億円程度とレベルは低く、今後の課題である。

【表3】第2四半期(累計)連結決算概要

(百万円)	FY12/09		FY12/10		対前年同期		FY12/10 通期(予)		
	2Q累計	構成比	2Q累計	構成比	増減額	増減率	5月発表	7月修正	構成比
売上高	6,672	100.0%	8,021	100.0%	1,349	20.2%	17,000	17,200	100.0%
売上総利益	1,088	16.3%	1,406	17.5%	318	29.2%	2,780	2,835	16.5%
販売管理費	1,318	19.8%	1,259	15.7%	△ 59	-4.5%	2,560	2,570	14.9%
営業利益	△ 230	-3.4%	147	1.8%	377	n.a.	220	265	1.5%
経常利益	△ 185	-2.8%	186	2.3%	371	n.a.	190	285	1.7%
純利益	△ 84	-1.3%	95	1.2%	179	n.a.	100	155	0.9%

注 2010年12月期予想は、其々2010年5月12日、7月23日発表の会社予想

【新たな取り組み—スマートエネルギーソリューションを強化】

当上期は、新規サプライヤーとして、通信ネットワーク向けの高性能半導体に強いネットロジック・マイクロシステム社(米)と、PLC 向け半導体を得意とするスペインの ADD セミコンダクター社を獲得、新規に代理店契約を結んだ。また、エンジニア比率の高い半導体商社である強みを生かして、デザインサービス(設計受託)事業を強化している。オリジナルの DSP 評価ボードの開発などにより、半導体だけでなくデザインサービスで対価がもらえるようにビジネスの拡大を目指していく。

日系メーカーのデジタルコンシューマー機器における存在感は、過去に比べて低下しているが、スマートグリッドなど地球環境の改善につながる技術にはビジネスチャンスがあると考えている。黒字基調に回復したことを受け、PALTEK もこの分野に投資を始めた。まず、6 月に行われた「スマートグリッド展 2010」に参加、低電力線通信(PLC)ソリューション、エネルギー制御をどう「見える化」するかなど、様々なソリューションを出展した。その他、NEDO 主催の「スマートコミュニティ・アライアンス」にも参加している。また、デザインサービス会社である 株式会社 iD、および東北大学との共同プロジェクトである、「無線センサーネットワークを用いた次世代工場エネルギー管理システムの研究開発」が経済産業省主催の戦略的基盤技術高度化支援事業に採択された。これは、小型電力センサと無線通信技術との融合により、生産装置レベルのきめ細かなエネルギー管理を工場などの広いエリアに適応。風力や太陽光などの再生可能エネルギーと蓄電池を組み合わせ、エネルギー蓄積状況を連携管理し、リアルタイムに「見える化」を実現する新しいエネルギー管理システムである。これに

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

より、例えば空調の均一化なども可能となる。スマートエネルギーについては今後も取り組みを加速し、将来の事業拡大につなげていきたいと考えている。

【質疑応答】 注：取材時の質疑も含まれています。

Q1. 下期の見通しは、上期実績を踏まえて見直した結果の据え置きなのか、見直さずに据え置きとしたのか。

A1. 見直した結果である。下期据え置きは、足元の受注活動は好調なのだが、一部半導体のデリバリーが滞っている、などの状況があるため。

Q2. PLDの売上が上期に対して下期に7億円増加するのは、ほとんど量産案件と考えていいか。具体的にはどのような案件なのか。

A2. ほとんどが量産案件のため、粗利率は低下する見通しだ。案件の大半は、リーマンショックで遅れていたもので、特にアルテラからザイリンクスへの置き換えが数件ある。たとえば、医療用機器や産業機器用途向け。民生機器領域では、セキュリティカメラやデジタルシネマ関連などがある。このほか、LTE(Long Term Evolution: 次世代無線高速データ通信規格)用途の計測機器関連も動き始めた。

Q3. 前年同期比、売上が伸長したにもかかわらず、在庫が減少しているのはなぜか。

A3. 古い在庫の処理を行った。加えて、PLDを中心に需給がグローバルにタイトで、日本向けに商品が入ってこないことが大きい。このようなタイト状況は2000年以来だ。現在、在庫回転率は1ヶ月を切っており、受注トレンドに追いつかない状況が続いている。

Q4. 足元の円高は、業績にはプラスなのか。

A4. 確かに現状は利益率にプラスに効いている。しかしながら、高価な半導体を仕入れ、定価を大きく下回る価格で販売するケースもあり、その場合、ドル建ての債権を持っていることになる。このため、業績的には、為替が変動しないことが最も望ましい。

Q5. スマートグリッド関連の業績への寄与はいつ頃から期待できそうか。海外での事業展開も考えているか。

A5. スマートグリッドはまだ着手したところなので、今期はまだ業績への寄与はない。当下期から事業として立ち上げ、来年度後半から具体的な成果が見えてくるのではないかと期待している。現在、欧州では電力線通信(PLC)を使ったスマートグリッドシステムが、米国では無線を使ったものが主流となりつつある。日本は既存の積算電力計が優れていることもあって、スマートグリッド不要論もあるため、未だ方向性が定まっていない。そのため、当社ではPLC、無線両方を視野に置いて研究中である。また当社は、あくまで日本の顧客が日本で行う開発や生産をサポートする会社であり、これで海外に進出することは今のところ考えていない。■

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【ご参考】 (7587)株式会社 PALTEK

連結主要指標と業績の推移

連結主要データ		
発行済み株式数(株)	2009.12月	11,849,899
うち自己株式数(株)	2009.12月	420,366
時価総額(百万円)	2010.8.24	3,970
一株当純資産(円)	2009.12月	691.7
ROE(%)	2009.12月	-0.7
ROA(%)	2009.12月	-0.6
PER(倍)	2010.12月予	24.7
PCFR(倍)	2009.12月	-136.9
PBR(倍)	2009.12月	0.5
株価(円)	2010.8.24	335
単元株数(株)	2010.8.24	100
日々平均出来高(株)	2010.8.24	2,024

連結主要データ		
総資産(百万円)	2009.12月	9,102
自己資本(百万円)	2009.12月	7,905
有利子負債(百万円)	2009.12月	0
自己資本比率(%)	2009.12月	86.8
有利子負債比率(%)	2009.12月	0.0
フリーキャッシュフロー(百万円)	2009.12月	578

注: ROE=当期純利益÷期首と期末の自己資本の平均

ROA=当期純利益÷期首と期末の総資産の平均

PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)

日々平均出来高=過去1年間の平均

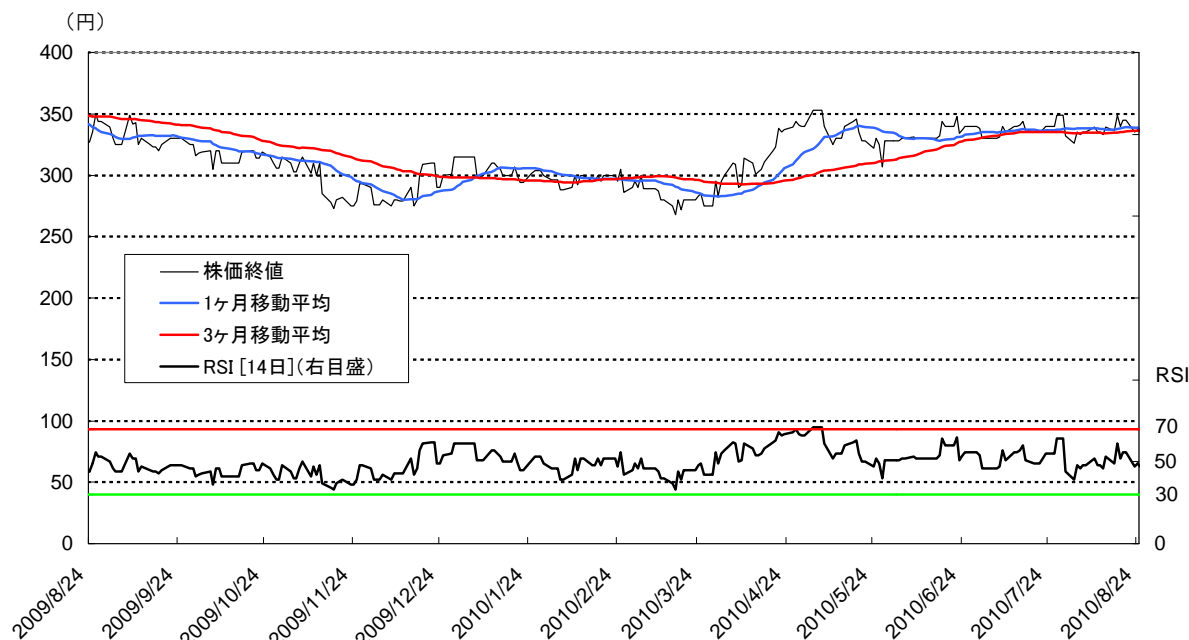
有利子負債比率=有利子負債÷自己資本

フリーキャッシュフロー(FCF)=営業CF+投資CF

連結(百万円)	売上	営業利益	経常利益	純利益	一株益(円)	一株配(円)
2006年12月期	14,729	△ 412	△ 42	△ 36	△ 3.10	10.00
2007年12月期	20,655	△ 300	△ 222	△ 258	△ 22.10	10.00
2008年12月期	20,726	131	286	59	5.10	10.00
2009年12月期	14,762	△ 182	△ 103	△ 60	△ 5.17	5.00
予2010年12月期 中間	8,021	147	186	95	8.37	0.00
予2010年12月期	17,200	265	285	155	13.56	5.00

注 2010年12月期予想は、2010年8月10日発表の会社予想

株価チャートとRSI



出所: Bloombergのデータを基にトリアス作成

注: RSI(Relative Strength Index)とは株価の「買われ過ぎ」や「売られ過ぎ」を指数で表したもので、一般的にRSIが70を超えると高値圏、30以下では安値圏に位置していると言われてい

RSI= N日間の値上がり幅平均÷(N日間の値上がり幅平均+N日間の値下がり幅平均)×100

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。